

番 号 : 180244

国 名 : モンゴル

担当部署 : 人間開発部 高等教育・社会保障グループ 社会保障チーム

案件名 : 社会保険実施能力強化プロジェクト (行政サービスにおける待遇向上/組織マネジメント)

1. 担当業務、格付等

- (1) 担当業務 : 行政サービスにおける待遇向上/組織マネジメント
- (2) 格 付 : 3号
- (3) 業務の種類 : 専門家業務

2. 契約予定期間等

- (1) 全体期間 : 2018年9月上旬から2019年1月下旬まで
- (2) 業務M/M : 国内 0.75M/M、現地 1.37M/M、合計 2.12M/M
- (3) 業務日数 :
 - 国内準備 5日
 - 第一次 現地業務13日、国内作業3日
 - 第二次 現地業務14日、国内作業3日
 - 第三次 現地業務14日
 - 帰国後整理 4日

3. 簡易プロポーザル等提出部数、期限、方法

- (1) 簡易プロポーザル提出部数 : 1部
- (2) 見積書提出部数 : 1部
- (3) 提出期限 : 8月15日(12時まで)
- (4) 提出方法 : 専用アドレス (e-propo@jica.go.jp) への電子データの提出又は
郵送(〒102-8012 東京都千代田区二番町5番地25二番町センタービル) (いずれも提出期限時刻必着)
提出方法等詳細については JICA ホームページ (ホーム>JICA について>調達情報>公告・公示情報/結果>コンサルタント等契約案件公示 (業務実施契約 (単独型))>業務実施契約 (単独型) 公示にかかる応募手続き)
(<https://www2.jica.go.jp/ja/announce/pdf/procedure.pdf>) をご覧ください。なお、JICA 本部1階調達部受付での受領は廃止しておりますので、ご持参いただいても受領致しかねます。ご留意ください。
- (5) 評価結果の通知 : 提出されたプロポーザルは JICA で評価・選考の上、各プロポーザル提出者の契約交渉順位を決定し、2018年8月28日(火)までに個別に通知します。

4. 簡易プロポーザル評価項目及び配点

- (1) 業務の実施方針等 :
 - ①業務実施の基本方針 16点
 - ②業務実施上のバックアップ体制等 4点
 - (2) 業務従事予定者の経験・能力等 :
 - ①類似業務の経験 50点
 - ②対象国又は同類似地域での業務経験 8点
 - ③語学力 6点
 - ④その他学位、資格等 16点
- (計100点)

類似業務	待遇向上に係る各種業務、組織・人事管理に係る各種業務
対象国/類似地域	モンゴル/全世界 (本邦含む。)

語学の種類	英語
-------	----

5. 条件等

- (1) 参加資格のない社等：特になし
- (2) 必要予防接種：なし

6. 業務の背景

モンゴル国（以下、「モンゴル」）では、労働・社会保障省が社会保障行政を一元的に所管するとともに、労働・社会保障省の下に設置された社会保険庁が、実施機関として、5つの社会保険（年金保険、短期給付保険、失業保険、健康保険、労働災害保険）を管轄している。社会保険庁は、21県9区すべてに地方社会保険事務所を有し、すべてのソム（村）に職員を配置する約1500名の職員を抱える組織である（2016年6月末時点）。

モンゴルの年金制度は、1942年の社会保障局の設立、1958年の年金法の成立を経て、明文化された。当初の共産主義体制の下では、労働者は平等に年金制度に加入しており、退職後は一律の年金が支給されていた。

現在は、被用者は強制加入、自営業者や遊牧民等は任意加入とする年金制度が運営されるとともに、1959年12月31日以前に生まれた者と1960年1月1日以降に生まれた者に、異なる年金算定方式が適用されている。このような現在の年金制度の枠組みは、1994年及び1999年の年金制度改革を経て成立したが、制度の移行は十分に進んでおらず、次のような課題が指摘されている。

制度面の課題としては、年金基金の恒常的な赤字の解消、年金給付水準の適正化（所得代替率等の見直し）、老齢保険年金と老齢福祉年金との給付調整、社会保険適用に関する被保険者の保護、年金基金の運用の在り方の検討等が指摘されている。

運営面の課題としては、社会保険庁職員に対する実務に対応した体系的な研修制度の構築及び研修に係る予算の確保、遊牧民等のインフォーマルセクターの加入促進、年金加入者及び受給者の加入記録の整備、労働・社会保障省と社会保険庁との間及び社会保険庁と地方社会保険事務所との間の協働体制の構築、ソム（村）の社会保険事務官の保険料の徴収に係る活動費の確保、研修等の人材育成面といったソム（村）の社会保険事務に係る環境整備、国民向け広報手段の改善等が指摘されている。

上記の制度面、運営面の課題が相互に関連する中、モンゴル政府は、日本に対して、年金分野を中心とした社会保険セクターにおける関係職員の能力向上等を内容とする技術協力を要請し、当機構は2016年5月から2020年5月までの4年間の予定で、労働・社会保障省及び社会保険庁をカウンターパート（C/P）機関として、技術協力プロジェクト「社会保険実施能力強化プロジェクト」を実施している。

本プロジェクトでは①社会保険庁及びパイロットサイトにおいて、社会保険事務の改善案の作成・検証、②適用・徴収・給付の実務改善の全国普及に向けたガイドラインの作成、③社会保険庁の適用・徴収・給付の社会保険実務研修システムの構築を行うことにより、もってモンゴルにおける当該実務の改善に寄与することを目的に、日本の年金制度及び年金実務に関する本邦研修（各年1回程度）や、年金制度（年金数理）に関する現地研修等を実施することとしている。本業務従事者は、年金請求や社会保険加入等の手続きを行っている、社会保険事務所における窓口対応等の行政サービスの更なる向上、及び、それを可能とする各拠点のリーダーの育成を目的に派遣するものである。現地研修は、ウランバートル市の社会保険庁、パイロットサイト、及び、各地域を代表する社会保険事務所（以下「代表事務所」という。）において開催する予定であり、参加者は社会保険庁、及び、各社会保険事務所における、管理職職員（各社会保険事務所長を含む）、及び、他の職員の模範となるべき職員（サービスリーダー）が想定されている。

なお、今回の派遣は、行政サービスにおける待遇向上等に関する3回目の派遣となる。第1回目の2016年11月～12月では、パイロットサイトとゲルを視察し、社会保険庁の幹部から一般職員まで広くヒアリングを行うことにより現状を把握、それに基づき、研修内容の検討を行った。第2回目の2017年4月～12月では、計4回の現地研修の中で、全職員共通の「待遇研修」に加え、全国の社会保険事務所にてサービスリーダーとしての活躍が期待される職員を対象とした「サービスリーダー研修」を実施し、基礎を踏まえた上で、更に職場をリードできる人材の育成を図った。

今回の第3回目は、これまでの研修内容の仕上げの位置付けであり、基礎的な待遇対応スキルを身に着けた職員、管理職職員及びサービスリーダーが中心となり、今後はモンゴル側が自立して待遇向上等を実施していくための技術移転を行うことを主な目的とし、モンゴルの待遇をリードする職員及びサービスリーダーの育成をメインテーマに実施するものである。

7. 業務の内容

本業務従事者は、①社会保険事務所における窓口対応等の行政サービスの更なる向上を行うた

め、他の職員の模範となるべき職員（サービスリーダー）を育成することを軸としつつ、②個人の知識・スキルのみならず組織全体でサービス改善に取り組むための組織づくり・人材開発を目的に、「接遇」、「組織マネジメント」及び「その他業務改善に関すること」を組み合わせた研修を行う。全3回現地派遣（各2週間）とし、ウランバートル市の社会保険庁（対象は同庁職員及びウランバートル市の社会保険事務所職員）、パイロットサイトの社会保険事務所または地方の社会保険事務所（代表事務所を想定）のいずれかから各回2カ所（各約1週間）程度の研修の開催を予定している。地方の社会保険事務所にて実施する場合は、近郊の社会保険事務所の職員の参加も想定している。

具体的な業務内容は以下のとおり。

（１）国内準備期間（2018年9月上旬）

- ①プロジェクト関係資料（基礎情報収集・確認調査、詳細計画策定調査、実地調査報告書等）を確認し、プロジェクトの内容及び進捗状況について把握する。
- ②JICA本部、JICAモンゴル事務所及び現地派遣中のJICA専門家チームと相談し、モンゴル社会保険庁で実施する研修の内容を確定する。
- ③研修での講義内容を準備する。
- ④今後、モンゴル社会保険事務所における窓口対応等の行政サービスの更なる向上において有益となる日本の知見の抽出を行うための、C/P機関関係者への質問・確認事項を準備する。
- ⑤現地派遣期間に実施すべき業務の計画をワークプラン（和文、英文）に取りまとめ、JICA本部に提出する。

（２）現地派遣期間（2018年9月中旬～2019年1月下旬のうち、2週間×3回）

- ①ワークプランに基づき、JICAモンゴル事務所及び現地派遣中のJICA専門家チームと、現地派遣期間中の業務工程、業務方針について詳細を打合わせる。
- ②モンゴル社会保険庁における「接遇」、「組織マネジメント」及び「その他業務改善に関すること」に関する研修において担当部分について講義する（プロジェクトにより日本語⇄モンゴル語の通訳が配置される。）。
（※研修においては本件専門家をメインの講師とするが、他に、C/Pによる発表、現地派遣中のJICA専門家による発表も含まれる。各回、国内準備期間中に研修スケジュールを確定する予定。）
- ③「接遇」研修については、モンゴル人講師候補を選定し、共同で研修を行うことにより、育成を行う。
- ④「接遇」研修をモンゴル社会保険庁の常設の研修とするためのプログラムを検討し、提案する。また、モンゴル社会保険庁が作成した接遇に関する資料に助言を行う。
- ⑤「その他業務改善に関すること」については、モンゴル社会保険庁の業務改善に繋がる内容の講義を行う。
- ⑥研修において質疑応答、追加情報提供依頼等があった場合には対応する。
- ⑦モンゴル社会保険庁をはじめとする年金分野関係機関と、今後モンゴル社会保険事務所における窓口対応等の行政サービスの更なる向上において有益となる日本の知見について情報・意見交換を行い、抽出する。
- ⑧現地業務結果報告書（和文）を作成し、JICAモンゴル事務所に提出する。

（３）国内作業（第1次、第2次現地作業後（10月上旬、12月中旬））

- ①現地派遣時の講義を振り返り、次回の改善点を抽出する。
- ②JICA本部に講義実施結果及び改善点につき報告する。
- ③次回現地派遣時の講義内容を準備する。

（４）帰国後整理期間（2019年1月下旬）

- ①専門家業務完了報告書（和文、英文）を作成し、監督職員に報告する。

8. 報告書等

業務の実施過程で作成、提出する報告書等は以下のとおり。

(1) ワークプラン

現地派遣期間中に実施する業務内容を関係者と共有するために作成。業務の具体的内容(案)などを記載。
和文/電子データで提出。

(2) 現地業務結果報告書

記載項目は以下のとおり。

- ①業務の具体的内容
- ②業務の達成状況
- ③業務実施上遭遇した課題とその対処

和文/電子データで提出。

(3) 専門家業務完了報告書

記載項目は以下のとおり。

- ①業務の具体的内容
- ②業務の達成状況
- ③業務実施上遭遇した課題とその対処
- ④今後モンゴル社会保険事務所における窓口対応等の行政サービスの更なる向上において有益となる日本の知見の普及活用ポイント
- ⑤プロジェクト実施上での残された課題
- ⑥その他

研修で使用した資料等があれば参考資料として添付すること。
体裁は簡易製本とし、電子データを併せて提出することとする。
和文1部。

9. 見積書作成に係る留意点

本公示にかかる見積書の積算を行うにあたっては、「JICAコンサルタント等契約における経理処理ガイドライン」(<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>)を参照願います。

留意点は以下のとおり。

(1) 航空賃及び日当・宿泊料等

航空賃及び日当・宿泊料等は契約に含みます(見積書に計上して下さい)。
航空経路は、日本⇒ウランバートル⇒日本を標準とします。

(2) 人件費単価

本業務における人件費単価は、2018年度単価を上限とします。

<https://www.jica.go.jp/announce/information/20180305.html>

10. 特記事項

(1) 業務日程/執務環境

①現地業務日程

本業務従事者の現地派遣期間は、以下を予定していますが、ある程度の日程調整は可能です。

- | | |
|-----|-------------------------|
| 第一次 | 2018年9月16日(日)～9月28日(金) |
| 第二次 | 2018年11月25日(日)～12月8日(土) |
| 第三次 | 2019年1月13日(日)～1月26日(土) |

②現地での業務体制

本業務に係るプロジェクトにはJICA専門家(長期専門家3名(チーフアドバイザー、社会

保険実務、業務調整))が派遣されており、現地にて、連携して業務を実施して頂く予定です。現地派遣中のJICA専門家との連携・役割分担の方法については、接遇研修の会場確保等の社会保険庁及び社会保険事務所との調整はJICA専門家が、研修の実施は本業務従事者が行う予定です。

③便宜供与内容

JICAモンゴル事務所または/及びC/P機関による便宜供与事項は以下のとおりです。

- ア) 空港送迎
あり
- イ) 宿舎手配
あり
- ウ) 車両借上げ
必要な移動に係る車両の提供（市外地域への移動を含む。）
- エ) 通訳備上
あり（日・モンゴル語）
- オ) 現地日程のアレンジ
あり
- カ) 執務スペースの提供
なし

(2) 参考資料

- ①本業務に関する以下の資料が当機構のウェブサイトで公開されています。
 - ・プロジェクト概要・プロジェクトニュース等（プロジェクトホームページ）
<http://www.jica.go.jp/project/mongolia/014/index.html>
 - ・モンゴル国年金分野に係る情報収集・確認調査ファイナル・レポート（2015年1月）
<http://libopac.jica.go.jp/images/report/P1000019472.html>
- ②本業務に関する以下の資料を当機構人間開発部高等教育・社会保障グループ社会保障チーム（TEL:03-5226-8352）にて配布します。
 - ・詳細計画策定調査報告書
 - ・過去に本プロジェクトにて派遣された同分野の専門家の報告書
- ③本契約に関する以下の資料を当機構調達部契約第一課にて配布します。配布を希望される方は、代表アドレス（prtm1@jica.go.jp）宛に、以下のとおりメールをお送りください。
 - ア) 提供資料：「独立行政法人国際協力機構情報セキュリティ管理規程」及び「情報セキュリティ管理細則」
 - イ) 提供依頼メール：
 - ・タイトル：「配布依頼：情報セキュリティ関連資料」
 - ・本文：以下の同意文を含めてください。
「標記資料を受理した場合、プロポーザル作成に必要な範囲を超えての使用、複製及び第三者への提供は行わず、プロポーザル提出辞退後もしくは失注後に速やかに廃棄することに同意します。」

(3) その他

- ① 業務実施契約（単独型）については、単独（1名）の業務従事者の提案を求めている制度ですので、複数の業務従事者によるプロポーザルは無効とさせていただきます。
- ② 現地業務期間中は安全管理に十分留意してください。また、現地業務に先立ち外務省「たびレジ」に登録ください。現地の治安状況については、JICAモンゴル事務所などにおいて十分な情報収集を行うとともに、現地業務の安全確保のための関係諸機関に対する協力依頼及び調整作業を十分に行うこととします。また、同事務所と常時連絡が取れる体制とし、特に地方にて活動を行う場合は、現地の治安状況、移手段等について同事務所と緊密に連絡を取る様に留意することとします。また現地業務中における安全管理体制をプロポーザルに記載してください。

- ③ 本業務の実施にあたっては、「JICA 不正腐敗防止ガイダンス（2014 年 10 月）」
(<http://www2.jica.go.jp/ja/odainfo/pdf/guidance.pdf>)の趣旨を念頭に業務を行うこととします。なお、疑義事項が生じた場合は、不正腐敗情報相談窓口または JICA 担当者に速やかに相談してください。
- ④ 本業務にかかる契約は「業務の完了を約しその対価を支払う」と規定する約款を適用し、国外での役務提供にかかる対価について消費税を不課税とすることを想定しています。

以上